

ゆきんこ

日帰りスキー報告

石上さんにスキー行く?連絡したところ、長島さんが行くなら2人でも行こうという事になり、石上宅に5時に集合・出発(ウィシユ4WD)しました。

スキー場は運転途中に話し合いで決め、結局小海リエックスに決まりました。

ちなみに石上さんは、小海リエックスは3回目ですが、雪が少ないのにコースがしっかり出来ている事・リフト料金が安い(シニア2000円・大人もJAFの会員登録提示で1000円引き)・昼飯料金が安い・持ち込み弁当も気を使わず食べやすいなどの理由で決めました。

清里のあたりでオレンジ色のフォレストが目に入ったので、わたゆきの加藤さん?もし伊豆ナンバーならまさか?近づくと何と伊豆、合図を送り偶然の出会いに感激し、途中のコンビニでお弁当を仕入れてスキー場に向かい、加藤さんと合流しました。

日曜日の割にグレンデは空いていて、急斜面以外は滑れる様に、よくまあ作ってあるもんだと感心しました。

3人でスキー協の今シーズンのテーマ、基本姿勢(足首の緊張・胸を

広げる・顎を上げ遠くを覗く)を滑りだす前に必ず確認してスタートする事を練習し、基本姿勢をずっと維持する事の難しさがわかりました。

雪面も堅く、ところどころフッシュも出ていて気を使いながら滑り結構疲れました。

加藤さんは小海リエックスには良く来るようで、リフト15本滑り終わりと決めていて、加藤さんが帰った後リフト5本くらい滑り終わりました。

途中の温泉(八峰の湯400円・小海リエックスのリフト券で割引)に入り体にご褒美を上げました。

スキー・温泉セットで又行きましよう。

2016年 1月10日(日)

長島



16初滑り・ スノーフェスティバル

岩品敦子

昨シーズンはあまり滑れなかったの、「今年は行くぞー」と、東海フロックの初滑りとスノーフェスティバルに行ってきました。

十二月十二・十三日の初滑りは、例年になく暖冬のため直前まで雪があるかどうか気がかり。菅平は団体

客で満杯でやむなく雪道を峠越えして鹿沢まで移動。

私の今年の目標は、後傾姿勢を改善し、姿勢でスキーをコントロールして滑れるようになることです。まず滑り始める前に講習で教えてもらった姿勢を意識するようにしました。(足首を緊張させて、スキー靴の足指に重心をかけ前傾、お尻にエクボを作るように、視線は前方遠くを見るなど)

愛知スキー協のコーチにいろいろな滑り方を体験させてもらって、充実した講習でした。

翌日は鹿沢で長島さん、神山さんに教えてもらいながら半日滑り、16シーズンのいいスタートを切る事ができました。

一月三〇・三十一日の平湯温泉スキー場での東海スノーフェスティバルには、ゆきんこから6名が参加しました。長島、神山、佐野さんたちはもっぱらボール練習、中野さんは子どもチームのコーチを務め、岩品は浜松・丹羽さんのスキー教室に参加しました。

2日目は大回競技に参加、タイムは次の通りです。

六〇代男子の部 (参加者多数二七人)

長島さん 三三秒二三 5位
中野さん 三四秒二七 8位
神山さん 三五秒九五 14位

一九・二九才女子の部 (参加者四人)
佐野友美 三六秒四一 4位

六〇代女子の部 (参加者九人)
岩品敦子 四四秒七八 6位

機器がうまく作動せず手作業で測ったため時間がかかりましたが、大回転のチャレンジを終えてやれやれとリフトで上に上がり、青空に映える美しい笹が岳の稜線を眺めました。同行の皆さん、お世話になりました。

日帰りスキ
3月6日(日)
「グランジュ高山」
担当: 中野
(281-9235)

県春スキ
3月19-20日
「赤倉」?
担当: 長島
(246-3078)

次回例会
3月4日(金)
アイセル21
PM7:00~ダヨ!

★「中国記・その五」はうう面です。よろしく!



中国記 その五

みやたすすむ

何うず頭の私は頭を剃っていましたがさすがに妹の風呂場（と、言ってもシャワーを浴びるだけの簡単なものですが、でも風呂のない家もあるようだ、だから体を拭いて終る家が大半です）で頭を剃るわけにはいかなないので床屋さんを探すのだが、（ここでは頭を剃ってへける床屋さんが見つからないのだ。（頭を剃るのも顔を剃るのもあまり変わらないと思うのですが）でも甥っ子がやっこの思いで見つけてきてくれたところがあり、そこにいくことになった。歩いていくと結構歩いた（二〇分くらい）、その床屋さんには見るからに職人らしき人に頭を剃る事を伝えると「頭を剃るほど髪の毛が伸びていない」と言われた。

が違つので椅子が上下するのだがそれがない。

床屋さんが上下に動いてくれるのならいいですが、私が床屋さんの都合の良いうに動くのだった。

まず高さは座布団のようなもので調整する、その次にカメのように首を長く出して鏡に向かって礼をするような姿勢をとる、それが終わると礼をしたまま顔を右にそれが終わると今度は左に回ける。宮沢賢治の小説に注文の多い料理店がありました、まさに注文の多い床屋さんだった。

ひととおり頭を剃ると、頭を洗ってくれるのだがそれがお湯ではなくて水なのだ。夏だから我慢が出来るけれども、冬でも水で洗うのかと心配になってきた。勿論、痒い所はありませんかなどと聞いてくれる。

それが終わると半分濡れているタオルを頭に乘せてきた。言葉が適切でないかもしれないけれど、頭にドサッと乗せるような感じ、乗せるだけでそれで終わりの何もしない。頭にタオルを乗せてじっとしているわけにいかないで自分で頭を拭く。

所変われば言葉があるけれども

すいぶん違つものだ と感じた。
これが文化の違いなんだと自分に言い聞かせた。

この床屋さんのかみさんらしき人に（五十代くらいの人）日本人が珍しいらしくてじっと見つめられた。私は皆さんがご存知のとおり女性にかかわることは無縁なので少し照れる。

でも散髪代金は日本円で三百円くらい日本の十分の一くらいの安さだった。

以下次書

